



旧出雲街道を行くごんごバス。狭い通りに小柄な車体がよく似合っている。

号線と西向きバスの通る出雲街道間は徒歩数分の距離であり、結構使い勝手は良さそうだ。  
バスセンターを出てすぐ津屋橋を渡る。一説では高瀬舟は平安時代こ津山に始まったとされる。今津屋橋周辺には江戸時代、船着場、舟宿、藩の舟屋敷などが設けられ、山陰と瀬戸内を結ぶ物資の交流で賑わった。  
4つめの停留所、天神橋で下車。バス停は国道53号線にあるが、狭い路地を抜ければすぐに旧出雲街



津山洋学記念館。妹尾銀行東津山支店として建築。外見は二階建てだが内部は一層の葺きぬけである。

東松原、津山洋学資料館に着く。この建物は大正九年（一九二〇）、地方銀行の支店として建築された。

道に出る。ここから旧街道を東に、東松原に向かう。作州鎌の工房「忠兵衛鎌」がある。古代「まがね吹く」と謳われた吉備の鉄加工の技を伝える昔ながらの店構えである。その先、道が2ヶ所鉤型に曲がっている。城下町特有の造りだ。

### 近代日本の源流・作州洋学

ここには江戸時代、美作の洋学と称された宇田川家、算作家およびその門下生たちの業績が展示されている。幕末の対露、対米外交交渉に活躍した算作阮甫（げんぽ）や足守に生まれた緒方洪庵の師、宇田川玄真など、日本の近代化の源流がこの小都市に深く根付いていたことは感慨が深い。物の交流は文化の交流である、ということを感じさせてくれる。

### 豪壮な町屋と旧算作家住宅

旧街道の町並みを西に戻る。国道から入ってきた路地のすぐ先に登録文化財・旧梶村家住宅「城東むかし町屋」が公開されている。広大な

市内循環・ごんごバスで巡る

# 城下町 津山

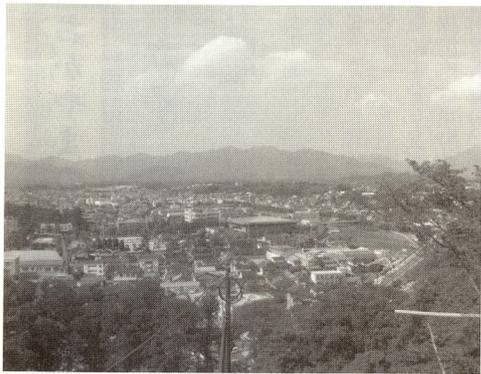
柳沢道生

## 美作の中心、津山

美作国（作州）が備前北部、英多（あいた）、勝田（かつまた）、苦田（とまた）、久米、大庭（おおひら）、真嶋（ましま）六郡を割いて分国されたのは、和銅六年（七一三）のことである。吉備国が備前、備中、備後三國に分割されたのは七世紀後半、さらに美作国が備前から分国されたことにより、古代の大国・吉備は四分割された。美作国の国府は津山市街西北の国府台寺（こうふだいじ）・津山市総社（39番地）付近に置かれたと推定されている。地名からも判るように、近くには美作国総社宮がある。  
津山の現在の市街が形成された

のは、美作一國十八万六千五百石を拝領した初代津山藩主森忠政が、慶長九年（一六〇四）津山盆地のほぼ中心に位置する鶴山（つるやま）に築城を始めたことによる。このとき「鶴山」は「津山」と改められた。森忠政は、本能寺の変で織田信長とともに亡くなった森三兄弟、蘭丸・坊丸・力丸の弟である。忠政は秀吉に仕え小田原攻めに参加、さらに朝鮮攻めに際して九州・名護屋城の造宮と警護の任にあたった。秀吉の死後、上杉討伐の徳川軍に参陣、石田三成を討つ。秀忠に従い信州上田の真田攻めなどに加わった。  
津山は、鶴山の南を吉井川が流れ、西には蘭田川（いだがわ）、東には宮川という吉井川の分流が流れる。

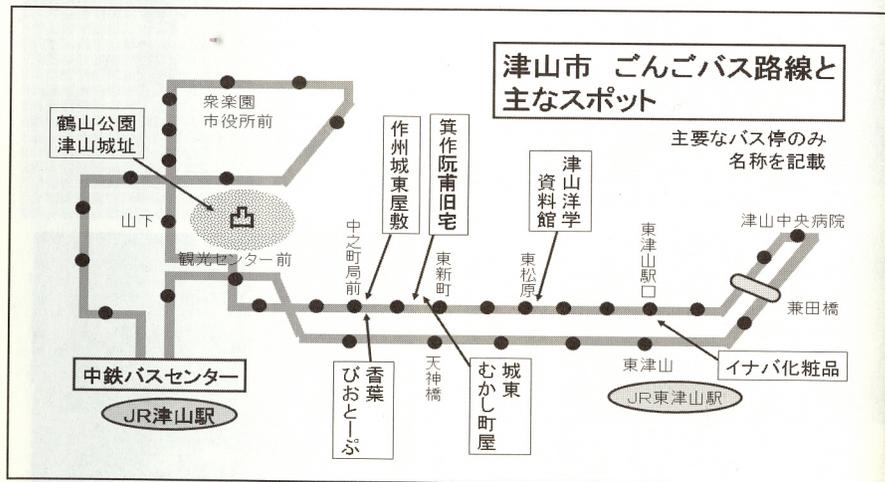
天然の要害の地であった。同時に、高瀬舟による水運と出雲街道、津山往来、因幡道など陸運の結節点であり、美作国の産物の集散地として、政治・経済・文化の面で美作国の中心となつて栄えてきた。  
ごんごバスで城東町並みへ  
城下町津山・は城の南・西・北側に武家町が置かれ、城の東側の吉井川北岸、出雲街道沿いには町人町が形成された。出雲街道に沿った町並みには、約1・2キロわたつて今も古い町屋や武家屋敷、寺町などが残り、県の「城東町並み保存地区」に指定されている。  
奥津温泉へ行く道すがら、この町並みと津山城址・鶴山公園を巡った。JR津山駅前、中鉄バスセンターから「ごんごバス」に乗る。「ごんご」とはこの地の言葉でかつばのこと。平成11年の試運行からスタートした市内循環バスの愛称である。東回り、西回り各1時間に1便の運行であるが、城東町並み保存地区付近では、東向きバスの通る国道53



津山城址から市内を展望する

城となりその跡は鶴山公園として整備され春には約5千本の桜が咲き競う。日本の桜の名所百選にも選ばれている。

石垣の間の道を登る。平山城といえ、城址に登るのみは結構な運動量がある。それだけに登りきった頂からの市内の眺望は値打ちがある、と感じた。平山城とはいえ、城址に登るのみは結構な運動量がある。それだけに登りきった頂からの市内の眺望は値打ちがあるものであった。



**DATA**

津山洋学資料館 津山市川崎 823  
TEL 0868-23-3324  
入館料 一般 150円 高校大学生 100円  
開館時間 9:00~17:00  
休館日 月曜(祝日の場合翌日)

箕作阮甫旧宅 津山市西新町 6  
TEL 0868-31-1346 入館料 無料  
開館時間 9:30~16:00  
休館日 月曜(祝日の場合翌日)、年末年始

城東むかし町屋 津山市東新町 40  
TEL 0868-22-5791 入館料 無料  
開館時間 9:00~17:00  
休館日 火曜(祝日の場合翌日)

作州城東屋敷 津山市中之町 19  
TEL 0868-24-6095 入館料 無料  
開館時間 9:00~16:30  
休館日 水曜(祝日の場合翌日)



旧出雲街道に沿った町家の造り、箕作阮甫旧宅

敷地に江戸後期に建てられた母屋付属屋、座敷、洋館、裏座敷、西蔵、東蔵、茶室、庭園などが設けられ、豪商の富がうかがえる。NHK朝の連続テレビ小説「あぐり」のロケもここで行われた。

その並びに箕作阮甫旧宅がある。阮甫が少年時代までを過ごした家であり、国の史跡に指定されている。幕末の町家の雰囲気がよく残されている。元来箕作家は津山の町医であったが、阮甫の頃には藩医となっていた。と考えれば、質素な造りという印象であった。



映画「男はつらいよ」のロケが行われた作州城東屋敷

さらに東に進む。またかた、道が2ヶ所鉤方に曲がっている。ここには「大曲」というそうだ。その先には「作州城東屋敷」がある。無料休憩所で木造平屋建て伝統様式の町家を中心に岡山県指定文化財のだんじりを展示しただんじり展示館や火の見櫓、消防機庫などがある。

**新名所? イナバ化粧品店のこと**

その向い、白壁の門の軒先に利休鼠(りきゆうねず)の粋なれんがかかっている。気になって入ると中

は個人住宅を改装したカフェ。屋号は「びおとーぶ香葉(カバ)」、店内にはさりげなくカバの置物などが置かれていた。この町屋の持ち主松本さんが散策客のために、平成16年末にオープンした。

聞けば、津山には若い女性の旅行者が多いという。B、Zの稲葉浩志の生家・イナバ化粧品店訪問が目を当てたそうだ。イナバ化粧品は本日の訪問地の東端、津山洋学資料館のさらに相当東らしい。今回はバス。他に、オダギリジョーや次長課長の河本準一も津山市出身とか。彼らに何か共通点はあるのだろうか。

**鶴山公園・津山城址**

香葉の前のバス停、中之町局前から再びごんごバスで観光センター前に向かう。観光センター付近には郷土博物館、科学教育博物館、民俗資料館などアカデミックな施設が並んでいる。奥津温泉行きのバスの時間も気になるので鶴山公園、津山城址に向かう。

津山城は明治六年(一八七二)廃